

# 大学野球

## 県勢5年連続神宮逃す

1日に開幕した大学野球の関東地区選手権大会で、神奈川リーグから出場した神奈川大と桐蔭横浜大は、両校に与えられる明治神宮大会の出場権獲得を逃した。これ

で県勢は5年連続で神宮の舞台に立てず、一発勝負のトーナメントの戦いに課題を残した。

(矢部 真太 写真も)

策が奏功したと語る。

今季で引退した横浜商大・佐々木正雄監督(70)も投手陣の層の厚さに他リーグの強豪との差を見る。「重任に勝つため日ごろから100回以上の接戦を繰り返す。そのためにリーグ全体の投手力向上は必要」。来年こそ全国の表彰台に県勢が立つことを期待したい。

### 投手層の厚さに差

優勝した創価大は初戦で敗れた桐蔭横浜大・斎藤博久監督(52)は「他リーグとの差を感じたわけではない」。打率4割超の大神田丈(3年)や今秋6戦先発の大城佑樹(4年)を故障で欠く陣容も、タイブレークの接戦を演じた。

## 課題の戦い勝負の一

インドを整えてあげられなかった」と首をたたく。14年連続出場の創価大は、経験豊富な投手陣を軸に頂点まで上り詰めた。準優勝の筑波大・川村卓監督(48)は「細かく球数制限を設けて、場面に關係なく投手交代させる」という緩投

投手層を整えてあげられなかった」と首をたたく。14年連続出場の創価大は、経験豊富な投手陣を軸に頂点まで上り詰めた。準優勝の筑波大・川村卓監督(48)は「細かく球数制限を設けて、場面に關係なく投手交代させる」という緩投

14年ぶりのリーグ春秋連覇を果たした神奈川大も、準決勝で筑波大に惜敗した。今秋5発の政井隆征(4年)、19打点の岡本泰宏(3年)ら中軸が沈黙。初戦の白鷲大・山田啓太(3年)は「東海大相模高出身」の好左腕の攻略に苦しんだ。6月の全日本大学選手権でも右の要即投手を打てずに敗退。就任1年目の岸川雄二監督(45)は「トーナメントで思いっきり振れるマ



岸川監督就任1年目であと一步のところまで神宮出場を逃した神奈川大